

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

史跡田名向原遺跡公園で

ボランティアガイドが

お待ちしております！

JR相模線の原当麻駅から「望地キャンプ場入口」行きバスに揺られて約10分、「塩田下」で下車し1分も歩けば、2009年4月にオープンした「旧石器ハテナ館」(愛称)に到着します。

「ハテナ館」では緑色の帽子を被ったボランティアガイド(以下ガイド)が皆様をお待ちいたしています。ガイドは2007年の「史跡田名向原遺跡公園」のオープンに添う形で、「相模原市文化財調査・普及員」の有志で実行委員会をつくり、始めたものです。

何度かの講習会を受講し、発掘現場にも足を運び発掘の体験をしたりと、考古学の初歩から始めたガイドも一段一段と考古の階段を登り現在に到っています。

「竪穴式住居に笹を葺くこともあるのですか?」、「住居状遺構はどうして“状”を使うのですか?またその意味は?」



住居状遺構はこんなに大きいです…

目次

- ① 田名向原遺跡ボランティアガイド
- ② 南部班小祠調査活動報告
・文化財調査・普及員第4期生講習会より
- ③ 街中の文化財保存奮闘記～鶴のレリーフ～
・田名の相模川渡し場跡めぐり
- ④ 相原の道と文化財
・文化財保護課からのお知らせ

ガイドはまだまだ初心者です。見学者からの、こんな難しい質問に窮することもあります。知っている限りの知識提供を心がけておりますので、どうか暖かい目でお見守り下さい。むろん叱咤激励も歓迎いたします。



石ヤリがたくさん出ました…

なお、ガイドは年末年始を除く第1～第4日曜日の午前10時から午後4時まで「旧石器ハテナ館」とその前に広がる「遺跡公園」の両方で案内を実施していますので、遊び方々お出掛け下さい。お待ちしております！

(田名向原遺跡案内・普及実行委員会 森)

旧石器ハテナ館

〒229-1125 相模原市田名塩田 3-23-11

TEL 042-777-6371 Fax 042-777-3106

休館日(12/29～1/3) 入館無料

展示室…旧石器時代を中心とした展示

実習・講習室…各種体験教室(一部有料)

南部班 「小祠」調査活動報告

南部班では、平成20年6月から担当地域内の「小祠」調査を行っています。調査員第2期生が加わった後、石造物調査を開始しました。しかし、市史編さん事業による市全域の石造物調査が開始されたため、「小祠」調査へと変更しました。平成22年3月に『小祠調査報告書』が市教委より発行されていますので、本書を基本として調査を進めています。しかし、この報告書は既に20年前のものになります。

近年、相模原台地内は新道敷設や宅地開発等著しいものがあります。そうした現状から、今回の調査目的を2つ掲げました。1つは20年前に記録された「小祠」が、今も存在しているかを確認すること。もう1つは、前回の調査で見落とされた「小祠」を見いだすことです。前回の調査では、少々急いでまとめた経緯があったために調査漏れの「小祠」があると報告書に述べられています。

さらに前回の調査時、神社・寺院や個人宅地内の「小祠」は除いていましたが、今回、個人宅以外の神社・寺院の「小祠」は加え、

より詳しい残存調査にしたいと考えました。完成期限は特に設けていませんが、「小祠」の由来等に詳しいご高齢の方々は少なく、のんびりはできません。

文化財指定の有無に関係なく、南部班地域の中で守り続けられている「小祠」調査を通して、地域の文化財保護に少しでも貢献できたらと考えています。



内藤清成の陣屋跡を偲ぶ小祠 陣屋稲荷

(南部班 白柳)

?

4期生と村富神社に同行～文化財調査・普及員第4期生登録者講習会より～

文化財調査・普及員の4期生登録者講習会で、10月12日に氷川神社と村富神社にて実地調査をしました。私は、村富神社に同行。神社に着いて、鳥居各部、日清の桜、神殿の千木と塹魚木、神社の由来、神の使いのキツネの話、山の神、蚕神、相模屋助右衛門と上



村富神社の立派な社殿

矢部新田について、市指定有形民俗文化財である獅子頭、見透の松の話、各種石碑の説明のあと石造物調査をしました。神社の鳥居の横にある地神塔を調べることにしました。

調査カードに各自図を書き、協力しながらメジャーで、縦、横、厚さを測り、写真

を撮り、文字を読む。普段使っている漢字と異なる字が彫ってあり、「何て読むんだ？」年代も「嘉永って？」と疑問、質問が出てきます。ワイワイ言い調査を済ませ、神社横の「八王子道」の道標と石塔、石像を観察しました。

一つの神社にも沢山の研究材料があることを知ってもらえたようです。質問多く前向きな受講生の皆さんと一緒に活動できることを楽しみに調査を終わりました。



地神塔の調査に夢中!

(東部班 大石)

街中の文化財保存奮闘記～比翼の鶴のレリーフ～

相模大野駅西側周辺、すなわち横浜銀行などが立ち並んでいるエリアが、現在大規模な再開発事業のために解体されています。この「さねさし」が発行される頃には3、4棟のビルを残して更地になっていることでしょう。

さて、その解体される建物の一つ、旧三和ビルの外壁に実に見事な銅版のレリーフが掲げられておりました。図柄は、上鶴間上空を二羽の鶴が飛翔しているというものです。ピッタリと寄り添った二羽の鶴、広葉樹と針葉樹が合体した不思議な木々、これぞまさしく『比翼連理』の図かと思われます。この相思相愛を表した縦横130cmの銅版レリーフは昭和48年から36年間、相模大野の街の発展を見守り続けてきた立派な文化財でもありました。

ところが、これがビルの解体と共に処分されることを知り、私は約一ヶ月間、その保存を関係各方面に嘆願して回りました。一時は諦めざるを得ない壁にもぶつかりましたが、作品の見事さと「助けて!」と言う鶴の叫びが通じたのか、なんとか保存できました!

現在は上鶴間公民館の玄関口の外壁に移設されて、二羽の鶴も心なしか嬉しそうに飛ん

でいます。今のところ、絵の下に「多心久」のサインがあり、山形県の長谷川雅山という人の工房で作られたらしい、そして、寄贈したのが大林組横浜支社長の五十嵐勝威氏ということぐらいしか分かっていません。



よりそう2羽の鶴

今回のことを通して、街の再開発事業が、実は貴重な文化財の破壊事業でもあることを実感して、もっと「文化財探査・保存を!」との思いを強くしました。

(東南班 山田真也)

田名の相模川渡し場跡めぐり～渡し舟のレリーフ～

西部班は9月上旬上田名バス停をスタートして田名地区にある大山道相模川渡河地点、滝の渡し場、久所の渡し場、望地の渡し場と三ヶ所を健康を兼ねて研修しました。

滝の渡し場は主に年貢米などを川輸送する筏場として利用されていたとあります。しかも、近年(昭和47年)まで対岸の田畑に通うために使われていました。

久所の渡し場は、江戸前期まで使われていた望地の渡し場が移されたものです。武州、甲州方面から甲州街道浅川口、八王子口を経由して田名に入り、川を渡る大山参詣の人馬往来が盛んになり、宿場は大いに賑わったと言われています。

しかし、川の増水による川留に際して



渡し舟の往来を物語るレリーフと渡し場の標柱



(西部班)

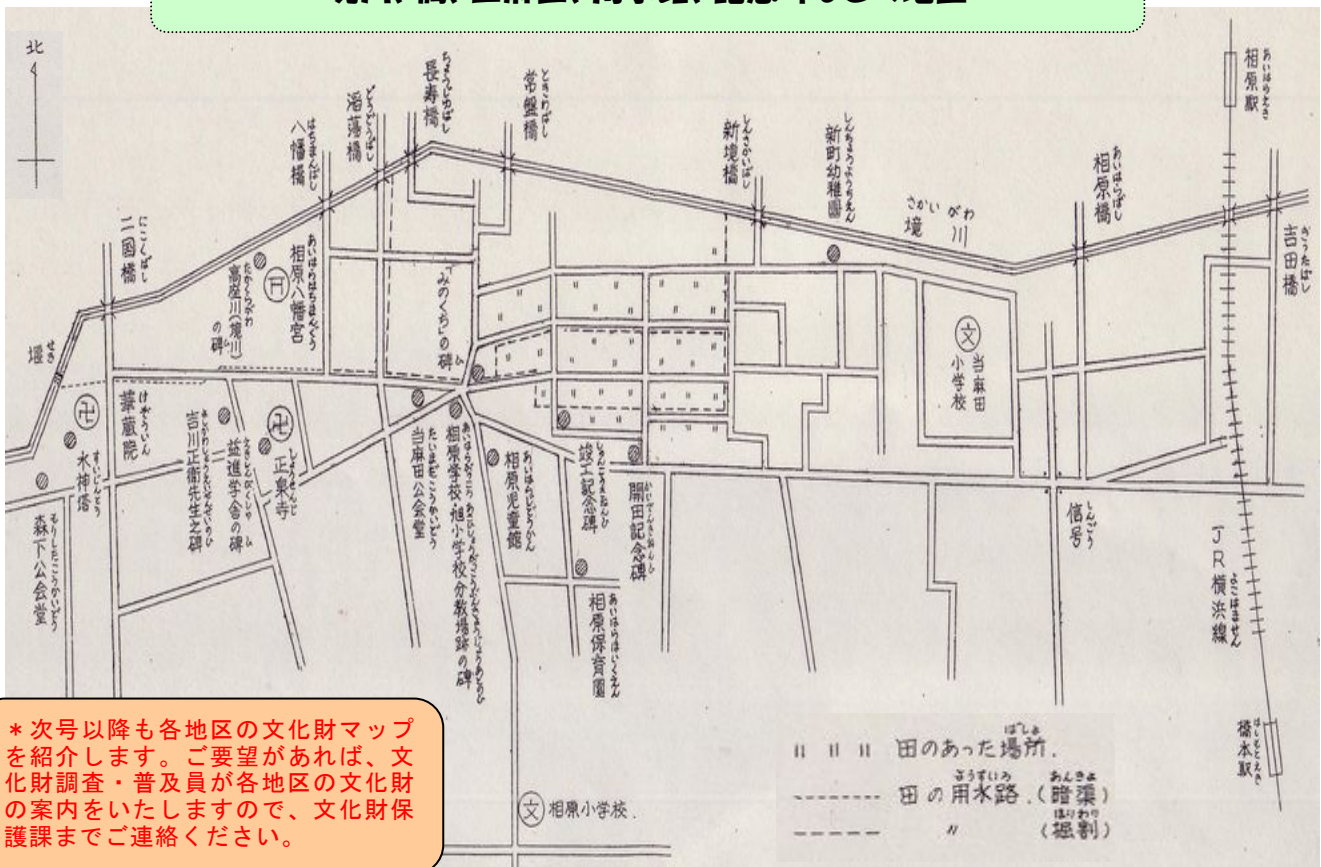
相原の道と文化財

相原地区は横山党が相模国に進出した際の最初の拠点と伝えられます。横山氏五代の時重は、七国峠を越えて相原の地に居をかまえて栗飯原氏を名乗ったといわれ、この地を進出と防御の拠点として位置付けたものかと思われます。拠点防衛策の一つとして、地域を直進困難な道路網にしたともいわれます。そのため、昭和以前までは相原には十字路が一ヶ所も無く、すべて鍵の手（クランク状）や丁字路に造られ敵の攻撃を防ぐ工夫がされていたとも伝わり、今でもその面影を残しているところを何ヶ所か見ることができます。

文化財関係のガイドマップは、知見豊富な先輩諸賢の尽力により、下図のような精緻な地図がいくつも作成されて貴重な資料となっております。また、平成16年には主な文化財等の写真も入れたカラー版のガイドマップも完成し、時折見学者のガイドに活用されています。

現状の貴重な文化財も将来の文化財となる新しい石造物も、風化や破損による形状の変化や所在地の移動を避けることが難しいものもあると思われませんが、平成20年時点の石造物249件の姿はしっかりと記録され相原公民館にて電子保存されています。（北部班 今野）

境川、橋、当麻田、用水路、記念碑などの地図



* 次号以降も各地区の文化財マップを紹介いたします。ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

文化財保護課からのお知らせ

史跡勝坂遺跡公園・勝坂中村家住宅主屋の整備経過

現在、勝坂遺跡公園では、竪穴住居2棟、敷石住居1箇所等の復元整備工事を行っております。また、同じ勝坂の幕末の和洋折衷住宅中村家住宅が市に寄贈されました。現在、平成22年4月の公開に向け両施設の整備を行っておりますので、ご期待ください。

* 文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは次の手順で閲覧できます。

相模原市ホームページ → 観光・文化（一覧を表示） → 文化財・史跡 → 文化財調査・普及員

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371



中村家住宅主屋